

ゼミ活動報告

「ミステリー作家後藤均先生にご講演頂きました」

國信奈苗

11月17日、大阪市立大学にてミステリー作家の後藤均先生にご講演頂きました。後藤先生は現在人事コンサルのお仕事をされながら、推理小説を執筆されています。公開講座



ということで私たち宮川ゼミ生と集まった多くの市大生たちに、ミステリーの話やどういう人材が社会に求められているかまで幅広く、ご趣味の芸能関係の楽しい話題を織り交ぜながら講演していただきました。

火曜サスペンスのラストシーンはなぜ断崖絶壁なのか。そしてなぜ犯人はとうとうと喋り出し、船越栄一郎が登場する

のか。後藤先生によると、日本人はお決まりパターンが好むというところに理由が潜んでいるようです。なるほど、それで日本では長年安定した人気を誇っているのだなと思いました。

人材については、今の日本には日本では柔軟な発想と想像をすることができる人材が必要だとおっしゃっていました。これも日本の起源という歴史をひも解き日本人の特徴を捉えることで、今必要な人材がわかるというものでした。日本の始まりはいつなのか全然分かりませんが、このような知識が柔軟な発想と想像につながっているのだと後藤さんのお話を拝聴しわかりました。

二つの話に共通していたのは因果関係を捉えながら先を読んで考える事でした。ロジカル・シンキングを学んできましたが、様々な分野に応用できることを実感し、より一層宮川ゼミでのトレーニングを進めてゆきたいと思いました。

また、講演会後にメタセコイアで行われた交流会では、ゼミ生の様々な質問に答えてくださり、推理小説や芸能界への興味も広がりました。後藤先生、とても有意義なお時間をありがとうございました。

